『経営に役立つヒント』　令和六年六月一日　第二百五十三号

先月の五月七日から十日まで、勉強会の仲間十五名で、親日国の代表である台湾を訪問しました。

訪問の目的は、主に三つあり、一つ目は「舘量子さん」に出会うことでした。

舘さんは、一人で、バシー海峡で戦死し、沈没した艦艇などに残る「海没遺骨」の収容をされている日本人女性です。自衛官時代にラッパ手だった舘さんは、日本兵が埋葬されている場所で、ラッパを手に「葬送の譜」を吹奏し、慰霊されていると、産経新聞の「正論」令和五年七月七日の記事で知りました。

本来、我々がやるべきこと、否、日本政府がやるべきことを、四十路に入ったばかりの女性が、たった一人で、我々の代わりにしていて下さる姿に、深甚なる敬意と共に感謝の思いに、我知らず頭が下がりました。

五月七日の夕方に、お会いさせていただき、今回は参加できない勉強会の心ある仲間たちから預かった分と、参加した我々の協力金を合わせてお渡し、長年のご苦労と努力に謝意を表明させて頂きました。

舘さんは、「この浄財を遺骨のＤＮＡ鑑定の費用に充てさせていただいていいですか」と言われ、もちろんですと応えさせていただきました。

二つ目は、高雄市にある鳳山紅毛港保安堂に建てられた「安倍晋三元首相の銅像」に手を合わせることでした。この銅像は、台湾の有志が建立された等身大のものです。日本の歴代首相で最大の貢献があった安倍晋三の銅像を、国内では、反対論に押され建立できない国であることに憤りを感じつつ、我々の責任も実感しました。

最後は、烏山頭ダムを十年の歳月をかけて造った「八田與一技師」の命日にあたる慰霊祭に参加することでした。八田與一は、昭和十七年五月八日に、船で移動中アメリカ軍の魚雷攻撃で亡くなりました。台湾では一番有名な日本人でもあります。この日は、台湾の頼次期総統も献花されました。

日本人が日本人としての誇りと自信を取り戻したい。我々が、自由に、平和に事業活動させて頂けるのも、こうした先人の尊い犠牲があってのことです。少なくとも、我々の出来る範囲で、台湾に対して、恩返ししていくこと。今も、先人の遺骨修養に携わって下さる方に協力することは、日本人としての務めではないでしょうか。そもそも、何故働くのか、何の為に利益を出すのか。その原点は、こういう時に寄付させて頂いたり、参加させて頂くためではないでしょうか。

参加してくれた仲間の心に、日本人として、一人の社長として、やるべきことが明確になったのではないかと思っています。

中央総研の、今年九月の社員旅行は台湾と決めました。その時に、舘量子さんが、記念の講演をして下さる予定です。若い社員の心に、深い感動と、仕事への使命観を醸成されることと期待しています。

今月のポイント

今ある命に感謝しつつ

仕事に全力投球を‼